

Ⅲ－１ 千葉の輝く魅力づくり

①光り輝く千葉の魅力発信

【現状と課題】

本県は、首都圏に位置しながら温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、太古の昔から人々が暮らし、それぞれの地域で、多彩な文化や特産品などが生まれ、育まれてきました。

美味しい食べ物がたくさんある本県は、いわば「食の宝庫」であり、農業産出額は北海道に次ぐ全国第２位で、銚子漁港は水揚げ量が日本一です。

全国に名を知られた落花生だけでなく、ネギや大根、なし、イセエビなど日本一の品目が数多くありますが、そのことはあまり知られていません。

また、本県には、東京湾アクアラインや我が国最大の国際空港である成田国際空港、幕張メッセや東京ディズニーリゾートといった大規模集客施設が数多くあり、たくさんの魅力が溢れています。

「光り輝く活気に溢れた千葉県」を実現していくため、これら本県が持つ数々の魅力を積極的にPRし、認知度、信頼度、好感度を高め、「行きたい・暮らしたい地域」、「買いたい製品の生産地」として、本県を選んでもらえるようにしていくことが必要です。

【取組の基本方向】

新聞・テレビなどの各種マスメディアを通じたPR活動を推進するとともに、マスコットキャラクターを使ったイメージアップ活動を戦略的・計画的に実施し、本県の魅力を発信します。

また、県産農林水産物については、千産千消・千産全消¹⁾の推進による販売促進活動の展開や、ブランド化を推進するとともに知事のトップセールスやマスメディアを活用し、より一層の知名度アップを図り、県産農林水産物のファンづくりに取り組みます。

【主な取組】

1 トップセールスなど戦略的計画的な情報発信の推進

首都圏を対象に、農林水産物や観光資源などのトップセールスを展開するとともに、イベント等を活用した各種情報発信を進めます。

2 各種広報媒体による積極的な広報

「県民だより」などの県刊行物や県広報番組、インターネット等による広報活動を推進します。

特に、観光、農林水産、東京湾アクアライン、国体などについては、全庁的に取組むなど大規模なPR展開を図ります。

3 効果的・効率的な情報発信の推進

千葉の魅力を効果的に発信するため、本県に対するイメージや魅力の把握に努めるとともに、市町村や民間と連携した情報発信を進めます。

4 「食の宝庫ちば」のブランド化と千産千消・千産全消によるファンづくり

全国トップクラスの農林水産物を数多く有する「食の宝庫ちば」の知名度向上のため、ブランド化を進めるとともに、トップセールスやマスメディア等を活用し千葉県産農林水産物の魅力を発信します。

5 世界に飛び出せ千葉の農林水産物

高品質と評価を受けている本県産農林水産物について、近年経済成長が著しく、高額所得者が増えているアジア地域を中心に、海外消費者向けの食品フェア、商談会、現地政府メディア・実需者を招いたレセプションの開催などを通じ、輸出を一層促進します。

6 ちば文化の魅力発信

千葉の文化的魅力を県内外に発信するため、市町村と連携した「ちば文化交流ボックス²⁾」や、「デジタルミュージアム³⁾」などを運営します。

また、「千葉・県民芸術祭」を開催し、県内外で活躍する芸術文化団体の魅力を広く発信します。

【注】

- (1) 千産千消・千産全消：「地域で生産された農林水産物を、その地域で消費すること」を意味する「地産地消」をもとに、千葉県としての独自の取り組みを表現するために、「地」の部分に同音で千葉を意味する「千」を使った造語です。また、千葉県で生産された農林水産物を全国に向けてPRし、全国での消費を目指す取組を「千産全消」としています。
- (2) ちば文化交流ボックス：県民の多様な文化的ニーズに応えるため、より幅広い文化情報を提供するとともに、県民の文化情報の発信を支援するために開設したホームページです。本県の文化資源情報や県内イベント情報などのコーナーなどを設けるとともに、県民の方からの文化情報も提供できます。
- (3) デジタルミュージアム：県立博物館・美術館の収蔵資料に解説文を付し、インターネット上でストーリー性のある展示を行っています。

Ⅲ－１ 千葉の輝く魅力づくり

②千葉の飛躍拠点としての成田国際空港の機能拡充

【現状と課題】

成田国際空港（以下、成田空港という。）は、首都圏における国際線基幹空港であり、本県はもとより、首都圏及び我が国における経済発展の核となる国際的な戦略拠点となっています。成田空港は、平成22年3月に年間発着回数が2万回増加して22万回となりますが、今後も増加が予測される首都圏の国際航空需要に的確に対応し、引き続き我が国の国際線基幹空港としての役割を果していくためには、周辺地域との共生・共栄を図りつつ、更なる容量拡大を目指すとともに、利便性の向上など、一層の機能拡充を図ることが必要です。

また、成田空港と都心・東京国際空港（以下、「羽田空港」という。）間の交通アクセスを一層強化し、両空港を一体的に活用することが不可欠です。

さらに、今後は、成田空港の持つ国際空港としての機能を活用した地域づくりを推進するだけでなく、成田空港の魅力をより一層高め、全県の経済活性化のための飛躍拠点として、支援し、育てていくことが必要です。

【取組の基本方向】

成田空港については、更なる容量拡大の実現に向け、国、空港周辺9市町（成田市、富里市、香取市、山武市、栄町、神崎町、多古町、芝山町、横芝光町）及びNAA（成田国際空港株式会社）と連携して、周辺地域との共生策を一層推進し、地元の理解と協力が早期に得られるよう努めるとともに、地域経済の活性化等により周辺地域との共栄を目指します。

また、成田空港と都心・羽田空港間の交通アクセスの一層の強化を図り、成田空港が我が国の国際線基幹空港としての機能を一層効果的に発揮できるよう、各種施策を展開します。

さらに、成田空港を本県経済の飛躍拠点として、県全体で支援する方策を検討するとともに、その魅力を全県の経済活性化に生かすための方策を検討します。

【主な取組】

1 成田国際空港の機能拡充

今後も増加が予測される首都圏の国際航空需要に対応し、我が国の国際線基幹空港としての地位を確固たるものにするため、国・県・空港周辺9市町及びNAAで構成する四者協議会において、環境対策などの共生策を推進し、成田空港の更なる容量拡大の早期実現を図るとともに、利便性の向上など一層の機能拡充に努め、地域と空港の真の共栄を目指します。

また、関係自治体や経済団体、NAAを含む民間企業などとの連携を図り、成田空港の持つ魅力のPR方法や、成田空港の更なる魅力向上のための支援策

の検討を進めます

2 成田国際空港周辺の地域共生策の推進

空港の運用拡大に伴う地域住民への騒音障害など、マイナス影響の解消を図るため、国・空港周辺市町・NAA等と連携を図りつつ、騒音対策等の地域共生策を一層推進するとともに、周辺地域と成田空港の永続的な共生を目指した施策の展開を図ります。

3 成田国際空港周辺地域の振興（空港との共栄策の推進）

地域と成田空港との共栄を目指し、成田財特法¹⁾に基づく「空港周辺地域整備計画」²⁾事業を推進するとともに、空港周辺9市町が策定した「成田国際空港都市づくり9市町プラン」³⁾との連携を図ります。

また、成田空港周辺地域の持つ歴史・文化・自然を観光資源として、韓国、中国及び台湾を重点地域とした外客の積極的誘致を図るほか、来訪者が県内各地を安全かつ快適に楽しむことができるよう受入体制の整備促進に取り組みます。

4 成田国際空港への交通アクセスの強化

成田新高速鉄道の建設や、同鉄道を活用した国の「成田・羽田両空港間及び都心と両空港間の鉄道アクセス改善」の検討に協力し、リニア新線等についても研究を進めるとともに、首都圏中央連絡自動車道・北千葉道路の整備を促進し、成田空港への交通アクセスの一層の強化を図ります。

【注】

(1) 成田財特法：成田国際空港周辺整備のための国の財政上の特別措置に関する法律

(2) 空港周辺地域整備計画：成田財特法に基づき、成田空港周辺地域の施設の計画的整備のため、昭和45年に策定された計画で、直近の変更は平成21年。

(3) 成田国際空港都市づくり9市町プラン：成田空港周辺の9市町による成田国際空港都市づくり推進会議が平成21年に策定した基本計画。

Ⅲ－１ 千葉の輝く魅力づくり

③アクアラインによるポテンシャルの開花

【現状と課題】

東京湾アクアラインは、木更津市と神奈川県川崎市を結ぶ東京湾横断道路として平成9年12月に開通し、本県の課題である「半島性」を解消するものとして期待されていましたが、通行料金の割高感から交通量が低迷し、期待された機能を十分に発揮しているとは言えませんでした。

このため、県では、国の支援も得て、平成21年8月から23年3月までの間、平日休日を問わず24時間、普通車の通行料金を800円とするなど全車種（ETC車限定）を対象とした大幅な料金の引き下げを行っています。

都心や京浜地域、成田国際空港地域、羽田空港への交通アクセスの向上による交流人口¹⁾の増加、そして企業立地の優位性の向上などが期待されるこの機会を最大限に活用する方策が求められています。

【取組の基本方向】

千葉県に埋もれている数多くの宝・ポテンシャルにさらに磨きをかけて、県内経済の活性化や地域振興に確実に結び付けるため、市町村や民間団体等と連携して様々な施策を進めます。

特に、観光地の魅力向上、観光消費を増大させる仕掛けづくりや、アクアライン着岸地の拠点整備、企業立地の促進、計画的な道路整備などに重点的に取り組んでいきます。

【主な取組】

1 アクアラインを活用した戦略的な観光振興

千葉県を訪れた観光客に「また訪れたい」と感じてもらえる観光地づくりを進めるため、道路、トイレ、駐車場などの整備を促進するとともに、より良いおもてなしをするために、観光に携わる人たちのスキルアップやホスピタリティ²⁾の醸成に取り組みます。

また、誘客の仕掛けづくりのほか、滞在の長時間化や宿泊型観光を推進していきます。

2 アクアライン着岸地における拠点地域の整備促進

アクアライン通行料金の大幅引き下げによりヒト、モノの流れが大きく変わり、首都圏におけるかずさアカデミアパークの優位性が飛躍的に高まることから、次世代を担う高い技術開発力を持った企業・研究所の誘致に取り組みます。

また、木更津市金田地区では、アクアラインの着岸地としてのポテンシャル

を生かした土地利用の促進が図れるよう、土地区画整理事業により都市計画道路をはじめとする公共施設などの基盤整備を推進します。

3 圏央道沿線地域等への企業立地の促進と地域産業の振興

千葉県企業の立地の優位性を高めるため、立地企業への助成や、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）をはじめとする幹線道路網の整備、人材の確保・育成の支援など、企業ニーズに即した立地環境の整備を図ります。

また、積極的な企業訪問やトップセールスを実施するなど、国内外の企業・研究所に対する誘致活動を展開します。

さらに、地域の資源を活用した新商品の開発や販路開拓、対岸地域の事業者との取引機会の創出・拡大を図り、地域産業の振興を図ります。

4 アクアライン関連道路網の整備推進

アクアラインの着岸地である金田地区や成田国際空港などのポテンシャルを高めるとともに、地域の交流と連携の強化や、物流の効率化を図るため、道路網の骨格をなす圏央道、東関東自動車道館山線（館山道）などの整備を促進します。

さらに、これらの高速道路を補完する地域高規格道路や国道・県道などの整備を進めます。

また、アクアラインから高規格幹線道路（圏央道・館山道・千葉東金道路）を経由し、主要な観光地を結ぶ幹線道路において整備を図ることにより、観光エリアへのアクセスを強化します。

【注】

- (1) 交流人口：通勤や観光などのため、他の地域から訪れる人のことをいいます。
- (2) ホスピタリティ：おもてなしの心のことです。

Ⅲ－１ 千葉の輝く魅力づくり

④魅力満載「千葉の観光」

【現状と課題】

千葉県は温暖な気候に恵まれ、大都市東京のすぐ隣に位置しながらも、「花」や「海」をはじめとする豊かな自然に恵まれています。また、数多くの歴史的・文化的な資源を有し、新鮮な海の幸や山の幸もあり、多様な観光のポテンシャルを秘めています。

こうした「宝」を十分に活かし、本県の観光を、地域経済の活性化に効果的に結び付け、安定した産業として成長させるためには、観光客の滞在の長時間化や宿泊型観光の推進、年間を通じて観光客が魅力を感じる観光地づくりが求められています。

【取組の基本方向】

千葉県の有する魅力を余すことなく引き出し、その質の向上を図るとともに、戦略的に情報発信に取り組むことで、時々の経済・社会状況に左右されにくい、力強い観光産業の育成につなげていきます。

【主な取組】

1 何度でも訪れたい魅力ある観光地づくり

観光を地域経済の活性化に確実に結び付けるため、観光客のニーズを的確に把握しながら、観光施設・名所・旧跡などの観光資源の磨き上げや有機的な連携に努めるとともに、催しや企画などの観光プログラムの充実、ニューツーリズム¹⁾の開発を促進し、観光客の滞在の長時間化や宿泊型観光の推進を図ります。

2 観光を支える人づくり

魅力ある観光地づくりを推進するためには、様々な分野において地域の観光を担う人材が必要です。

そこで、地域における観光振興の取組をより確かなものとするため、観光に携わる人たちのスキルアップやホスピタリティの醸成、魅力ある観光地づくりや地域の観光振興を担う人材の育成を推進します。

3 観光地千葉の知名度向上

多様な広報媒体を通じて、総合的・戦略的に千葉県観光の魅力を全国に向けて発信するとともに、旅行動向を大きく左右し、新たな観光ニーズの形成に大きな影響力を持つメディアや旅行会社等に対して、トップセールスを含む効果的なプロモーションを展開します。

4 国際的観光地としての地位の確立

日本の表玄関である成田空港を擁する優位性を生かし、韓国、中国及び台湾を重点地域とした外客の積極的誘致を図るほか、来訪者が県内各地を安全かつ快適に楽しむことができるよう受入体制の整備促進に取り組みます。

また、地域経済の活性化に貢献する経済波及効果の高い国際会議等の積極的な誘致を図ります。

【注】

(1) ニューツーリズム：従来の物見遊山的な観光旅行に対して、テーマ性が強く、人や自然とのふれあいなど体験的要素を取り入れた新しいタイプの旅行をいいます。